

いてご講演いただきました。シンポジウムは「地域完結型医療にむけて～現状と問題点～」として、急性期病院（松江赤十字病院）、回復期病院（出雲市民病院）、慢性期病院（耕雲堂小林病院）、診療所（すぎうら医院）それぞれの立場から、地域完結型医療に対する問題点を議論していただきました。

一般演題のポスターセッションには41題が集まり、議論に花が咲きました。

第28回岡山県支部学術集会

学術集会会長：川崎医科大学附属病院病院長 永井 敦

2023年9月30日（土）に、川崎医科大学現代医学教育博物館にて会場とオンラインとのハイブリッド形式で開催しました。テーマ



会場風景

を「オール岡山による次世代医療人の育成～地域医療を担うリーダーの養成～」とし、167名のご参加をいただきました。

基調講演は「医療の未来へつなぐオール岡山 次世代チームリーダーの養成」と題し、学術集会会長が講演しました。

特別講演では、京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センターの片岡仁美先生から「働き方改革とダイバーシティ&インクルージョン」、川崎医療福祉大学の本野勝己先生から「これからの医療施設に求められる事務職の人材像と育成について」と題してご講演をいただきました。

シンポジウムでは「次世代のメディカルスタッフの育成」をテーマとして、シンポジスト4名の方のご講演後に総合討論を行いました。

一般演題は40題の登録があり、動画配信サービスを使用して視聴いただきました。

開催にあたりご協力を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

第13回愛媛県支部学術集会

学術集会会長：社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 院長 松野 剛

2023年9月30日（土）にテクスポート今治にて第13回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を開催しました。過去2回はコロナ禍の影響でWEBやハイブリッド形式での開催を余儀なくされましたが、3年

ぶりに対面での開催となり、計100名の方にご参加いただきました。

さて、今回は「医療DX－今後の医療と働き方を考える－」をテーマとし、特別講演として社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院の中尾浩一院長に「医療DXがもたらすパラダイムシフト～「価値中心の医療」を探る～」についてご講演いただきました。



会場風景

また、一般演題では感染・褥瘡対策、組織運営、患者支援・退院支援、在宅医療、栄養管理・NST、安全管理・安全対策、クリティカルパス、チーム医療、教育・研修、モチベーション向上、診療録管理、検診の分野から27題が発表されました。久々の対面開催ということもあり、各発表ともに活発な質疑応答等が行われ、盛会のうちに終わることができました。開催にあたり多大なご支援とご協力を賜りました関係者の皆様へ、厚く御礼申し上げます。

また、一般演題では感染・褥瘡対策、組織運営、患者支援・退院支援、在宅医療、栄養管理・NST、安全管理・安全対策、クリティカルパス、チーム医療、教育・研修、モチベーション向上、診療録管理、検診の分野から27題が発表されました。久々の対面開催ということもあり、各発表ともに活発な質疑応答等が行われ、盛会のうちに終わることができました。開催にあたり多大なご支援とご協力を賜りました関係者の皆様へ、厚く御礼申し上げます。

分科会等開催案内

2023年度クリティカルパスワークショップ

テーマ：クリティカルパスを正しく理解し、病院運営に役立てよう

クリティカルパスが日本に導入されて20有余年になります。臨床の現場に活用され、医療の質向上に大きく貢献していることは皆の認めることと思います。

日本医療マネジメント学会が行っているアンケート結果をみるとクリティカルパスは200床以上の病院の約9割で導入され、各病院で使用されているクリティカルパスの数も増加しています。

一方、同じアンケートから組織としての取り組みのあり方、紙クリティカルパスから電子カルテクリティカルパス移行時の問題、さらに近年はマンネリ化によるクリティカルパスの理解不足や推進するリーダーの不在等々現場においての運用にさまざまな問題が生じていて苦労されていることがわかりました。

本ワークショップは各施設でクリティカルパスの運用に携わっている方々が夫々の問題を持ち寄り、意見を交換し問題の解決をはかることを目的に企画されました。

クリティカルパスの実務担当者、できれば各施設から複数の御参加を頂きたいと考えています。

多数の御参加をお待ちします。